

日本学生支援機構 第二種奨学金 ～制度概要・出願条件について～

1) 出願にあたっての3カ条

- ①奨学金を借りるのは「学生本人」。自分の名義で借りることを自覚し、**学生本人が諸手続きにあたること**
- ②大学からの連絡に注意すること（大学から付与されているメールアドレスを常に確認、電話もチェック）
- ③期限は厳守すること（不測の事態で自分が損をしないように手続きは余裕をもって行うこと）

2) 貸与型奨学金の概要

独立行政法人日本学生支援機構が実施する奨学制度で、人物・学業ともに優れた学生で経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学金が貸与されます。**貸与終了後は、必ず返還しなくてはなりません。**

※機構の推薦基準に基づき大学が推薦し、採否は機構が決定します。出願者全員が採用されるわけではありません。

※本学独自の奨学制度「文教大学奨学金」や、「高等教育の修学支援制度（日本学生支援機構給付奨学金、授業料減免）」との併用は可能です。ただし、文教大学奨学金と高等教育の修学支援制度は併願はできますが、併用は不可です。

奨学金種別	月額など	貸与始期
第二種 (有利子)	2万 円～1 2万円 の範囲から 1万円単位で希望額を選択	2020年10月～2021年3月のうち、 本人の希望する月 (2020年4月～9月は選択できません)

※**第一種奨学金（無利子）の二次募集は実施されません。**第一種奨学金に出願を希望する方は、次年度4月の定期募集の際に出願してください。

※二次採用希望者の貸与始期（何月分から貸与を受けるか）は上記の通りです。採用された場合、初回交付時に貸与始期から当月分までが一括で振り込まれます。

※第二種奨学金は返還時に利子がつく有利子の奨学金です。

3) 保証制度

奨学金を返還できなくなった場合の保証制度を選択します。機関保証から人的保証への変更はできないので、十分にご検討ください。

人的保証	連帯保証人と保証人を選任し、保証をお願いする制度（事前の承諾は必ず得ること） ・連帯保証人・・・「父」もしくは「母」 ・保証人・・・ <u>父母を除く</u> 、4親等以内で65歳未満の別生計の成年親族 ※例）おじ・おば・いとこなど
機関保証	機構が指定した機関に保証を依頼する保証制度 ・貸与月額に応じた保証料（目安は「奨学金を希望する皆さんへ」P.52～54参照）を、貸与月額の振込から天引きで支払う ・保証機関が代わって奨学金を返還した場合、返還額を立て替えた保証機関に一括で支払う必要がある。

4) 併用貸与を希望する第一種奨学金貸与中の学生について

現在、第一種奨学金の貸与中で、第二種奨学金も併せて貸与を受けたい方は、以下のような取り扱いとなります。

出願条件	学力基準：第一種奨学金の基準を適用します
	家計基準：第一種・第二種併用基準を適用します

5) 出願条件について

(1) 家計基準

日本学生支援機構発行「貸与奨学金案内」6 ページ【年収・所得の上限額の目安】を参照ください。

(2) 人物基準

学習態度、生活態度がともに優れている人

(3) 学力基準

※生計維持者（原則父母）が住民税非課税で、特に優れた成績を修める見込みがある 2017 年度以降入学生は、第一種の「学力基準」は適用外とします。

※第二種に申込み 1 年生に限り、学力基準に満たない場合でも、申告書の提出によって申込を認めることがあります。該当する者は教育支援課 HP から「申告書」を印刷し、必要事項を記入のうえ、上記書類と併せて提出してください。

学年	奨学金種別	学力基準
1 年生	第一種貸与中で第二種と併用を希望する場合	下記のいずれかに該当する者 ・出身高等学校長発行の調査書評定平均値が 3.5 以上 ・文部科学省が行う高等学校卒業程度認定試験合格者
	第二種のみ希望	下記のいずれかに該当する者 ・出身高等学校長発行の調査書評定平均値が原則として 2.8 以上 ・文部科学省が行う高等学校卒業程度認定試験合格者
2 年生 以上	第一種貸与中で第二種と併用を希望する場合	標準修得単位数（注 1）を修得 しており、 前年度までの GPA（注 2）が 2.0 以上
	第二種のみ希望	標準修得単位数（注 1）を修得 しており、 前年度までの GPA（注 2）が 1.5 以上

※注 1) 標準修得単位数

	1 年終了時点	2 年終了時点	3 年終了時点
情報・国際・経営	31 単位	62 単位	93 単位
健康栄養	33 単位	65 単位	98 単位

※注 2) GPA とは、これまでに履修した全授業科目の成績の平均値です。

成績を 5 段階評価「AA」「A」「B」「C」「D・E・F」に分け、それぞれに 4、3、2、1、0 の Grade Point を設定し、その平均値を計算します。GPA を利用した場合、履修した単位すべてが評価の対象となります。

【D・E・F】評価、つまり単位認定されなかった科目についても評価対象となり、こうした評価が多いと GPA も下がります。なお、資格等の認定単位で【T】【G】評価については、計算から除外します。

$$\text{評価「A A」} \cdots 4 \times \text{修得単位数} = \text{評定値}$$

$$\text{評価「A」} \cdots 3 \times \text{修得単位数} = \text{評定値}$$

$$\text{評価「B」} \cdots 2 \times \text{修得単位数} = \text{評定値}$$

$$\text{評価「C」} \cdots 1 \times \text{修得単位数} = \text{評定値}$$

$$\text{評価「D・E・F」} \cdots 0 \times \text{単位数} = \text{評定値 (0)}$$

$$\text{単位数の合計} \quad \text{評定値の合計}$$

$$\text{GPA} = \text{評定値の合計} \div \text{履修単位数の合計}$$